
名も無い物語 2

春功

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名も無い物語2

【Nコード】

N3991B

【作者名】

春功

【あらすじ】

どこまで、人間の感情は崇高なのか？人はともに笑い、ともに泣く事が出来る。大切なのは、幸せを知ることだけではない。人の苦しみを知ること大切なのだ。あなたにもあるはずだ。つらい思い出や憎しみが。それが人間の人生を豊かにするのだ。一人の人間の思いを綴った物語、第二弾開幕。

太陽が真上に昇った今、僕はテレビを見ている。
それに加えてテレビを見ながら、音楽を流しているという変人っぷり。

「あははは」

そのテレビを見て、よく笑っている、と自分でも思う。
いつもは苦しみ、悲しみ、泣いているのに。

番組では、盲目の少女を救った差し出し不明のオルゴールについて、
やっている。

いわゆる感動話だ。

だけど、僕は笑う。

「救った」

という矛盾しているフレーズが微妙に笑いを誘うのだ。

「あははは」

無機質に、笑い続ける。

救いもしない奇跡なんて、感動できるはずがない。

だって、神様は助けられないんだから。

そんなこと、当たり前だ。

流れている音楽の歌詞にこんなフレーズがあった。

『守りたい女って、思った。初めて』

羨ましいと思う。自分にはそんな風に思った経験すらない。そんな愛しい感情すら、神様は僕に与えてくれない。

理不尽だ、と思うときもある。

だが実際、奇跡や自分を変えることは、自分自身がやらなくては何も変わりやしないのだ。

変わろう

そう、何回思ったことだろうか？

だけど、その強い判断も、自分の中にある恐怖には勝てない。

「できっこない」

そう決めつけて、また僕は自分の殻の中にこもって悲しみ続ける。

「は…はは」

自分の弱さに、呆れかえって、僕は小さく苦笑した。

強くなりたい。

心の中では、本当にそうなりたいと思っているけれど、何も変わらない自分がそこに居る。

なんて弱い存在なんだろう？

そんな自分が本当に大嫌いだった。

テレビから流れてくる感動話と音楽が、気持ち悪く混ざりあって自分の心の中で不協和音を奏でているかのように聞こえた…

僕は苦しみながらも、今も笑っている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3991b/>

名も無い物語 2

2010年12月8日18時10分発行